

会報

第 4 号
1998. 12. 20
新 潟 大 学
理 学 部 同 志 会

五十年目の

節目を越えて



大学院自然科学研究所（左）と情報理工棟（右）

新潟大学理学部の現状と展望

新潟大学理学部長

長谷川 彰

（物理学科第八回卒業）



新潟大学は昭和二十四年に創設され、いよいよ平成十一年六月一日に創立五十周年記念日を迎えることになりました。いろいろな記念事業が企画されていますが、理学部でも「理学部五十年史」の出版に加えて、いくつかの独自の計画を立てています。理学部は発足当時、教員数四十二人、学生入学生員八十人の規模でしたが、現在では発足当時の二倍をこえる規模にまで発展しました。

この設立趣旨が社会的に認められたことを示しています。

教育研究の高度化をめざし、平成七年度から、大学院自然科学研究所を区分制大学院へ改組する改革が始まりました。この改革の基盤は理学研究科、工学研究科、農学研究科の修士課程を廃止し、博士後期課程のみであった従来の自然科学研究科と統合し、学際的・総合的な教育研究をめざす新しい博士前期二年・後期三年課程へと発展させたことです。さらに研究科に五十七人も専任教員を配置できました。これまで新潟大学にはなかった分野の研究者を学外から多数採用することができ、自然科学系の陣容は一段と強化されました。この改革を契機に、自然科学研究科を中心とし、学部や学科の壁を越えて新しい教育研究グループが形成されつつあります。アカデミックな雰囲気が高まり、また、

建物の建設計画も着実に進行しています。私たちは教育を重視した国際交流にも力を入れています。フィリピン国立ミンダナオ大学イリガン工科大学理学部の女性物理学者バツカラ教授が新潟に滞在された折に交流の機運が高まり、平成九年三月にウンバ校長をお招きし、交流協定の調印を行いました。ウンバ校長は自国の科学技術の発展のため、基礎科学教育を強化したいという強い意思を表明され、おなじような理念をもつ私たちと大いに共感するところがありました。学術研究の成果は人類共通の財産であり、どの国の教員や学生とも共有し、継承すべきです。平成九年度にはインドネシアの名門バンドン工科大学鉱物工学部とも交流協定を締結しました。現在、どちらの大学とも教員の交流が主になっていますが、近い将来、学生や大学院の交流につながってゆくことが期待されます。

これまでの理学部の歴史の中で最も大きな変革は、平成六年度、環境科学を教育研究のテーマとする総合学科として自然環境科学科を新設したことだと思います。この新学科は平成十年三月に最初の卒業生を送り出しました。卒業生の約半数は大学院へ進学し、約半数は社会人として活躍する道を選びました。経済的な不況にもかかわらず就職率は高く、この新学科

二十一世紀に向けて、私たちは新潟大学理学部を大学院自然科学研究科とともに改革し、着実に発展させる努力を続けています。同窓会の一層のご発展をお祈りいたしますとともに、理学部の今後の発展のために皆様方の暖かいご支援をいただきたいと思います。

新学科を中心とし、学部や学科の壁を越えて新しい教育研究グループが形成されつつあります。アカデミックな雰囲気が高まり、また、

建物の建設計画も着実に進行しています。私たちは教育を重視した国際交流にも力を入れています。フィリピン国立ミンダナオ大学イリガン工科大学理学部の女性物理学者バツカラ教授が新潟に滞在された折に交流の機運が高まり、平成九年三月にウンバ校長をお招きし、交流協定の調印を行いました。ウンバ校長は自国の科学技術の発展のため、基礎科学教育を強化したいという強い意思を表明され、おなじような理念をもつ私たちと大いに共感するところがありました。学術研究の成果は人類共通の財産であり、どの国の教員や学生とも共有し、継承すべきです。平成九年度にはインドネシアの名門バンドン工科大学鉱物工学部とも交流協定を締結しました。現在、どちらの大学とも教員の交流が主になっていますが、近い将来、学生や大学院の交流につながってゆくことが期待されます。

二十一世紀に向けて、私たちは新潟大学理学部を大学院自然科学研究科とともに改革し、着実に発展させる努力を続けています。同窓会の一層のご発展をお祈りいたしますとともに、理学部の今後の発展のために皆様方の暖かいご支援をいただきたいと思います。

大学全般

新潟大学は平成十一年六月一日に創立五十周年を迎える。それを記念して新潟大学五十年史の刊行と五十周年記念事業が平成六年度後半に武藤輝一前学長から提案され、全学で承認された。その概要を紹介したい。

一 「新潟大学五十年史」

昭和三十三年に「新潟大学五十年史」の刊行が計画されたが、昭和四十三年と同四十四年に大学紛争が続き刊行事業の継続が不可能になり、継続・中止が検討され、それまで準備した資料を基に「二十五周年史」を刊行することになり、昭和四十九年三月「新潟大学五十年史」が刊行された。それ以後、

新潟大学は、大学院博士課程自然科学研究科及び現代社会文化研究科の設置、教養部の廃止、各学部の改組、国際交流の進展等、総合大学として大きく発展してきた。その発展の歴史を五十年史として残し、新潟大学の更なる発展の為の貴重な資料としたいというのが学長提案の主旨であった。平成七年四月に各部局から選出された委員から構成される編集委員会が設置された。五十年史は二十五年史と同様総編と部局編から構成され、部局編は、特に教育課程の改革、入試制度の変遷・改革、研究活動

自己評価・自己点検、国際交流等に力点を置くことが編集の基本方針とされている。部局編は各部局からの提出も終わり、現在五十年史編集室(新潟大学名誉教授本間義治氏(元理学部教授)、元附属図書館職員金子芳雄氏)で編集中心である。

二 五十周年記念事業

「五十周年記念事業準備委員会」が設置され、記念式典・祝賀会等検討部会、記念講演会等検討部会及び一般事業部会の三部会を設け、具体案を検討中である。予定されている主な事業を簡単に紹介する。

創立五十周年記念行事について

●記念式典・祝賀会

平成十一年六月一日。

●記念講演等

開催日は記念式典前後の土・日曜日。シンポジウム形式で、予定されているテーマは「二十世紀の新潟と新潟大学」(仮題)である。

●一般事業等

記念植樹、大学校旗の作成。部局が計画する貴重な資料(人文局学部考古学関連資料、医学部人骨資料及び理学部各種標本)の展示をこの部会が記念事業の一環としてまとめる。

会理学部委員) 渡部 剛

理 学 部

A 理学部企画による行事

「理学部活動の公開」(仮題)を行い、理学部全体と各学科の教育研究活動を一般市民、中学生、高校生等を中心に公開し、基礎科学の現状と将来、及び重要性についての理解と普及に務めることを目的としています。実施時期は開学記念日に近い平成十一年五、六月の土曜或いは日曜の予定です。記念事業の内容はおよそ次の通りで、午前の部は理学部全体の、午後の部は各学科の企画です。

多くの参加者に理学部及びその活動内容を理解していただき、また特に若者たちに興味を持ってもらうように、各学科が主体的に計画を練っていますが、

①学科の施設を公開する。

②実験室を利用して簡単な実験を公開及び体験をしてもらう。

③ポスターなどで学科の教育研究内容をわかりやすく紹介する。

この三つが基本線となっています。各学科における実験・展示・体験コーナー・デモコーナーなどの企画の一部をご紹介します。

【物 理 学 科】

*計算機・ビデオによるシミュレーション。①宇宙の不思議：宇宙、銀河、星の誕生と進化。②「物性小話三題」：金属の知られざる容姿・駆けめぐるイオン・物質の変身。*体験コーナー。①放射線の不思議。②低温の不思議な世界。

【生 物 学 科】

*①遺伝子を取り出してみる。②遺伝子を分析してみよう。

【化 学 科】

*サッカーボール型分子C₆₀(フラーレン)を作って遊ぼう。この魅惑的な分子の合成と性質について調べてみましょう。

【自然環境科学科】

*「肉眼、ルーペから光学顕微鏡、電子顕微鏡、更に分子レベルまで」

マンネングサを対象に。肉眼から物質レベルまでの「表情」の観察。右記の企画については、理学部全体及び各学科等で案を練っており、最終決定は少し後になります。

B 全学共同企画行事への参加

主題は未定ですが、各学部における学術的に貴重な意義を持つ保存資料などを展示により公開し一般市民や中学生・高校生の閲覧に供するのが目的です。実施時期はやはり平成十一年六月辺りを考えています。企画中の内容は・・・。

* 理 学 部

①化石・岩石・鉱物の展示

②県内に分布する植物種の標本展示

C 「理学部五十年史」の出版

一九四九年(昭和二十四年)の理学部発足以来、今日に至るまでの足跡と発展を記録した「理学部五十年史」の完成が近づいています。大学院の改組(大学院自然科学研究科博士後期課程・前期課程の設置)や、平成五年度の自然環境科学科の新設を始め、理学部の歴史と現在を知るためには欠かせない内容が盛り込まれています。本文は約三百頁、クロス貼り装丁で、学部卒業生、大学院卒業生の全名簿も掲載されます。

(理学部記念事業実施委員会委員長) (化学科教授・評議員)

小 侯 三 郎

「思い出を語る」

新潟大学での
四十二年間

新潟大学名誉教授



菅野 浩
(化学)

そのせいか教官の多くが東大出身で、教室の設備は貧困であったが講義や実験はかなりレベルが高かったように思う。

昭和二十四年六月に新潟大学が発足してからはほぼ半世紀が過ぎた。発足時に理学部助手(化学科)として採用された私は当時二十四才だったから、定年退職まで四十二年近くも新潟大学とともに過ごしたことになる。発足当初の理学部は旧制新潟高等学校の本校舎と特別教室を使った。化学科は特別教室のうちの化学教室があてがわれた。大きな階段教室に四つの研究室と一つの大実験室。数年前には私はここで学生として過ごした懐かしい母校であった。

初年度の教室は五名(翌年三名増)で学生定員は十五名であった。実験設備は皆無に近く、図書も貧弱、予算も敗戦直後の貧困のため少なかつた。幸い数年後に国費や県の寄付で木造研究室棟が旧教室に延長して新築され、無機分析化学は旧教室、有機化学と物理化学は新教室に移った。初代理学部長の松井正夫教授は東大理学部化学のご出身で有機化学の教授も担当

ふり返ってみると、この頃は時の流れがゆるやかで良い時代であった。雑誌の数が少ないので文献をゆっくりと読めた。(今はコピーした文献がすぐに机上にたまってしまふ)。ぼつぼつと集めた部品で装置を組み立てて実験を楽しめた。教室で海水パンツにはきかえて海水浴に行ったり、テニスや野球を裏のグラウンドで学生諸君と一緒にやったり、化学科教官学生全員で旅行したり、今では懐かしい思い出である。

昭和四十年には大学院修士課程が設置され、ついで五十嵐地区への大学の統合整備がすすめられた。理学部校舎の着工の段階で激しい大学紛争に直面したが、茅原理学部長以下多くの方々のご努力でこれをのりこえ、立派な総合大学キャンパスが完成したことは誠に喜ばしいことであった。さらに昭和六十年には念願の総合大学院博士課程が設置された。定年退職の前に、このように発展を遂げて一人前の総合大学に成長した新潟大学の姿を見ることができたことは大変嬉しいことであった。

(現在敬和学園大学教授)

地方大学と ホウレン草

生物学第一回卒
新潟大学名誉教授



廣川 豊康
(生物学)

今年はいつになく台風や集中豪雨などの災害が続き、野菜類の出来が悪いという。しかし、街角の小さなスーパーにも豊富な品数の野菜類が並んでいる。よく見ると中国など外国産のものもあり、どれも初冬という季節を忘れさせるようなみずみずしさである。今ではごくあたりまえの光景だが、私には苦しい思い出が甦ってくるのである。

それは昭和三十五年、私が学生時代を過ごした同じ生物学科に助手として勤務することになった当時のことである。

博士論文を提出せずに大学院を辞めてきた私は、光合成の生理学的研究という課題研究を早急にまとめる必要に迫られていた。

研究に使えそうな設備も機器も無かった当時の教室だったが、それは百も承知の私は、必要な器具や試薬類等は大学院時代の研究室に無心し、肝腎な実験装置は自作することでなんとか研究にとりか

かるまでに漕ぎつけた。しかし、いざ実験開始という所で思わぬ事態が生じたのである。実験材料のホウレン草がどうしても手に入らないのだ。

光合成の研究材料にはホウレン草、またはパセリがよく用いられていた。葉の組織が柔らかく、活性の高い葉緑体を容易に取り出すことができるうえ、四季を問わず何処でも手に入るからである。そのホウレン草が手に入らないとは……、なぜだ?

冬が来て野山一面が雪に覆われる新潟では生鮮野菜の収穫はゼロになる。また、県外からの輸送もほとんど途絶するのでホウレン草やパセリは忽ち店先から姿を消してしまうのだ。それは雪が消えるまで少なくとも数か月は続くということだった。

八方手を尽くしても、遂に一把のホウレン草も入手できなかった私は、結局別な材料に切り替えての研究の開始までにさらに少なからぬ月日を要したのだった。

東京ではいつでも手に入ったホウレン草、それが新潟では半年間も手に入らない。地方大学での研究のむずかしさを思い知らされた私にとつての苦しい思い出である。

リレー会員だより 今は昔

桐蔭横浜大学教授
志賀 浩二



志賀 浩二
(数学一回
昭和28年卒)

この年齢になると眼の前の景色から過ぎ去ったことへと心が走ることも多くなる。昭和二十四年といえは今は昔ということになるだろう。その前年、私は営所通りの坂上にあつた木造二階建の旧制新潟高校へと入学したが、一年たつてみたら看板はかけかえられて、新潟大理学部ということになっていた。あつという間に街から弊

衣破帽の旧制高校生は消えてしまつたが、看板のつけかえには少し手間どつたようで、私の記憶では記念すべき第一回の入学式は七月になつて行われたようである。私は同じ校舎に通学していたながら、いわば制度の切り替えに押し上げられるようにして、好むと好まざるにかかわらず大学生となつてしまった。旧制高校一年のときはクラス単位の授業だったから、一般教養科目とかいうことで、社会学などという講義が、講堂に皆を集めて行われたのが物珍しかった覚えがある。さて二年生となると数

首都圏同窓会

学科としての講義がはじまったが、たった九人のクラスで、一人が休めばすぐ目立つという有様で、なれるまでこれには困った。先生の方も、数学専門科目を教えられるのは初めての御経験で、随分と戸惑っておられたようであった。教える方も教えられる方も何が何だかよくわからぬうちに三年が過ぎて、それで卒業ということになっ

てしまった。
しかし、いま思ひ起すとのどかなものであった。演習の時間、先生は演習問題を出されると「では」とさっさと退場され、終る頃になると「どうですか」と戻ってこられる。その間、私たちは話もしにくくて、不思議な時を過していた。

今年九月二十六日(土)、例年通り交通の便の良い西新宿のエステック情報ビル(工学院大学)で、第十三回目的「新潟大学理学部首都圏同窓会」が開かれました。
開催時期が遅くなったことで、幹事会では参加人員を心配しましたが、四十三名の同窓生の皆さんが参集され、例年通り楽しい同窓会となりました。

今年九月二十六日(土)、例年通り交通の便の良い西新宿のエステック情報ビル(工学院大学)で、第十三回目的「新潟大学理学部首都圏同窓会」が開かれました。
開催時期が遅くなったことで、幹事会では参加人員を心配しましたが、四十三名の同窓生の皆さんが参集され、例年通り楽しい同窓会となりました。

今年九月二十六日(土)、例年通り交通の便の良い西新宿のエステック情報ビル(工学院大学)で、第十三回目的「新潟大学理学部首都圏同窓会」が開かれました。
開催時期が遅くなったことで、幹事会では参加人員を心配しましたが、四十三名の同窓生の皆さんが参集され、例年通り楽しい同窓会となりました。

今年九月二十六日(土)、例年通り交通の便の良い西新宿のエステック情報ビル(工学院大学)で、第十三回目的「新潟大学理学部首都圏同窓会」が開かれました。
開催時期が遅くなったことで、幹事会では参加人員を心配しましたが、四十三名の同窓生の皆さんが参集され、例年通り楽しい同窓会となりました。

今年九月二十六日(土)、例年通り交通の便の良い西新宿のエステック情報ビル(工学院大学)で、第十三回目的「新潟大学理学部首都圏同窓会」が開かれました。
開催時期が遅くなったことで、幹事会では参加人員を心配しましたが、四十三名の同窓生の皆さんが参集され、例年通り楽しい同窓会となりました。

今年九月二十六日(土)、例年通り交通の便の良い西新宿のエステック情報ビル(工学院大学)で、第十三回目的「新潟大学理学部首都圏同窓会」が開かれました。
開催時期が遅くなったことで、幹事会では参加人員を心配しましたが、四十三名の同窓生の皆さんが参集され、例年通り楽しい同窓会となりました。

今年九月二十六日(土)、例年通り交通の便の良い西新宿のエステック情報ビル(工学院大学)で、第十三回目的「新潟大学理学部首都圏同窓会」が開かれました。
開催時期が遅くなったことで、幹事会では参加人員を心配しましたが、四十三名の同窓生の皆さんが参集され、例年通り楽しい同窓会となりました。

今年九月二十六日(土)、例年通り交通の便の良い西新宿のエステック情報ビル(工学院大学)で、第十三回目的「新潟大学理学部首都圏同窓会」が開かれました。
開催時期が遅くなったことで、幹事会では参加人員を心配しましたが、四十三名の同窓生の皆さんが参集され、例年通り楽しい同窓会となりました。

今年九月二十六日(土)、例年通り交通の便の良い西新宿のエステック情報ビル(工学院大学)で、第十三回目的「新潟大学理学部首都圏同窓会」が開かれました。
開催時期が遅くなったことで、幹事会では参加人員を心配しましたが、四十三名の同窓生の皆さんが参集され、例年通り楽しい同窓会となりました。

今年九月二十六日(土)、例年通り交通の便の良い西新宿のエステック情報ビル(工学院大学)で、第十三回目的「新潟大学理学部首都圏同窓会」が開かれました。
開催時期が遅くなったことで、幹事会では参加人員を心配しましたが、四十三名の同窓生の皆さんが参集され、例年通り楽しい同窓会となりました。

今年九月二十六日(土)、例年通り交通の便の良い西新宿のエステック情報ビル(工学院大学)で、第十三回目的「新潟大学理学部首都圏同窓会」が開かれました。
開催時期が遅くなったことで、幹事会では参加人員を心配しましたが、四十三名の同窓生の皆さんが参集され、例年通り楽しい同窓会となりました。

今年九月二十六日(土)、例年通り交通の便の良い西新宿のエステック情報ビル(工学院大学)で、第十三回目的「新潟大学理学部首都圏同窓会」が開かれました。
開催時期が遅くなったことで、幹事会では参加人員を心配しましたが、四十三名の同窓生の皆さんが参集され、例年通り楽しい同窓会となりました。

今年九月二十六日(土)、例年通り交通の便の良い西新宿のエステック情報ビル(工学院大学)で、第十三回目的「新潟大学理学部首都圏同窓会」が開かれました。
開催時期が遅くなったことで、幹事会では参加人員を心配しましたが、四十三名の同窓生の皆さんが参集され、例年通り楽しい同窓会となりました。

還言された先生

北見健彦先生(付属臨海実験所)

昭和33年5月/平成9年3月

吉村尚久先生(地質数学科/自然環境科学科)

昭和36年9月/平成10年3月

岡崎秀樹先生(教養部・物理学科)

昭和35年4月/平成10年3月

田巻 繁先生(物理学科)

昭和43年4月/平成10年3月

柴崎達雄先生(自然環境科学科)

平成9年7月/平成10年3月

六戸 俊助先生(化学科)

平成9年1月3日

深田 直実先生(化学科)

平成9年9月18日

横田伊佐秋先生(物理学科)

平成10年1月14日

事務局長より

「会報3号」の訂正とお詫び

巻頭言の筆者、有磯邦男氏は数

学科第一回の卒業生です。また、

「思い出を語る」の茅原は、茅原

一也先生です。

野本森萬先生(生物↓物理)

野田光蔵先生(物理↓生物)

右の四力所が誤っております。

訂正しお詫びいたします。

亡くなるれた先生

今年度から、自然環境科学科が理学部同窓会に仲間入りすることになりました。どうぞよろしくお願いたします。

自然環境科学科第一回卒業生

山田 光子

今年度から、自然環境科学科が理学部同窓会に仲間入りすることになりました。どうぞよろしくお願いたします。

自然環境科学科は平成六年度に設置され、やっと第一回目の卒業生を出したばかりの新しい学科で

当首都圏同窓会は、数学・物理・化学・生物・地磁・環境の各学科同窓生の自薦・他薦の代表が幹事

今年度から、自然環境科学科が理学部同窓会に仲間入りすることになりました。どうぞよろしくお願いたします。

自然環境科学科は平成六年度に設置され、やっと第一回目の卒業生を出したばかりの新しい学科で

当首都圏同窓会は、数学・物理・化学・生物・地磁・環境の各学科同窓生の自薦・他薦の代表が幹事

今年度から、自然環境科学科が理学部同窓会に仲間入りすることになりました。どうぞよろしくお願いたします。

自然環境科学科は平成六年度に設置され、やっと第一回目の卒業生を出したばかりの新しい学科で

当首都圏同窓会は、数学・物理・化学・生物・地磁・環境の各学科同窓生の自薦・他薦の代表が幹事

今年度から、自然環境科学科が理学部同窓会に仲間入りすることになりました。どうぞよろしくお願いたします。

自然環境科学科は平成六年度に設置され、やっと第一回目の卒業生を出したばかりの新しい学科で

当首都圏同窓会は、数学・物理・化学・生物・地磁・環境の各学科同窓生の自薦・他薦の代表が幹事

今年度から、自然環境科学科が理学部同窓会に仲間入りすることになりました。どうぞよろしくお願いたします。

自然環境科学科は平成六年度に設置され、やっと第一回目の卒業生を出したばかりの新しい学科で

当首都圏同窓会は、数学・物理・化学・生物・地磁・環境の各学科同窓生の自薦・他薦の代表が幹事